

ケアマネジャーのグループワーク結果

論点①ルールのお知らせが十分でない

(現在の取組)

- ・事業所内でルールについて伝達し、共有
- ・入院連絡を受けた時は必ず連絡
- ・介護保険証の携帯の徹底
- ・病院・包括でファイルを作り、介護と医療の情報を記載し病院に提出(薬の情報等)
- ・朝のミーティングで入退院の有無確認。ホワイトボードに記入してスタッフで共有
- ・津久見市は、市・居宅部会で作成した共通シートがある
- ・事業所独自のシートを使用
- ・職員の入れ替わりによりルールの周知不足が生じる(課題)

(改善に向け取り組むとよいこと)

- ・介護保険証を医療保険証と一緒に保管することを徹底させる

論点②患者情報がほしい時に病院訪問する際に事前連絡がない

(現状)

- ・情報が必要なときは連絡しているが、面会のみ有的时候には連絡しないこともある
- ・訪問のついでなど、事前連絡なしで急遽面会に行くことがある
- ・連絡を忘れたり、夜遅くなると連絡しにくいことがある
- ・事前に連絡しても忙しそうで声をかけられないこともある(出直す)

(改善に向け取り組むと良いと思うこと)

- ・ルールの徹底を心がけていく

論点③退院時の連絡があった場合、 病院へ情報を返さないことがある

(現状)

- ・病院から求められた情報は提供するようにしている

(改善に向け取り組むと良いと思うこと)

- ・病院から求められている情報が何かわかるとよい(ケアプランがほしいのか、サービス計画書がほしいのか等)
- ・連絡をした際に必要な情報を教えてほしい
- ・連絡がなかった件については連絡を徹底していく必要がある

論点④施設へ退院する際に、ケアマネジャーから施設職員に情報が伝わっていないことがある

(現在の対応)

- ・地域包括支援センターのケアマネジャーが情報をつとめ調整することがある

(改善に向け取り組むと良いと思うこと)

- ・施設の種類(ケアマネジャーがいない施設)の周知が必要か
- ・ケアマネジャーや行政が動いて、ルールについて情報提供していかないといけない

病院のグループワーク結果

論点①ルールを周知するためには

(現在の取組)

- ・フローチャートを作成した

(改善に向け取り組むと良いと思うこと)

- ・看護師全員にルールを周知する
- ・家族や患者本人に、介護保険証を持参してもらい、介護保険証に名刺を入れてもらう
- ・入院連絡はうまくいっているが、退院時連絡が課題。ケアマネジャーと連絡会を持ったり、連絡が漏れた時、事後でフォローできる体制が必要

論点②病院内の引継

(現在の取組)

- ・定期的にカンファレンスを実施し情報共有を図っている
- ・各病棟にMSWを配置した
- ・2ヶ月に1回ケアマネジャー等多職種での会議をしている
- ・病棟異動があると共有が難しい(課題)

(改善に向け取り組むと良いと思うこと)

- ・電子カルテ内で在宅サービスや退院支援に関する情報を共有する
- ・MSW、他職種を交えたカンファレンスを実施する

論点③ 家族や患者の希望でケアマネジャーに病名を伝えられないことがある

(現在の対応)

- ・ 家族の同意を得てケアマネジャーに情報提供
- ・ ケアマネジャーに直接家族や本人から聞くよう伝えている

(改善に向け取り組むと良いと思うこと)

- ・ 介入前に、ケアマネジャーと情報共有してよいか確認する
- ・ 家族とケアマネジャーの関係調整をする
- ・ 本人・家族に制度説明をする
- ・ ケアマネジャーに伝える情報を医師に相談する
- ・ 利用方法を確認して情報を提供する